

2013年現在

# 今ドキウーマン

超氷河期の就職活動を経験した2013年現在の働く女性たち。結婚・出産後も働きやすい環境が整いつつあるが、人生観・仕事観も多様化し、自分らしい働き方の選択に迫られている。

## 結婚のピークは20代から30代へ

初婚年齢は90年代に入って徐々に上昇。30代で結婚する女性は、1990年には約60,000人だったのが2011年には約15万3,000人を超え、30代以降で結婚する女性が右肩上がり。この20年で晩婚化が急速に進んでいる。

## 子どもは1人、または持たない夫婦へ

1972年以来、30年間にわたって約2人と安定していた子どもの数が、2010年に2人を下回った。また、30代夫婦で子どものいない世帯は1990年の12.1%から2000年には18.6%へ増加(出典:内閣府「平成17年版国民生活白書」より)。DINKS<sup>®</sup>も急増。

※Double Income No Kidsの略。共働きで子どもを持たない夫婦のこと

## 未婚女性は2倍以上に急増!

50歳時点で一度も結婚していない人の割合を示す「生涯未婚率」。その数値は年々増加し、2010年には1割を超えた。さらに2030年には約2割の女性が生涯未婚になるという推定も出ており、未婚化に拍車がかかる。

## リーダー的役割を担う女性が増加!

1992年には約6%だった係長クラスの女性管理職は、2011年には約12%と2倍以上に上昇。女性たちの社会的地位や立場は、この20年間で少しずつ向上しているといえる。社会の気運も女性リーダー増加へと向く今、女性管理職が今後さらに増えることが期待される。

## 専業主婦→両立へ、意識も変化

未婚女性に「理想とするライフコース」を尋ねた結果、「結婚・出産を機に退職する」専業主婦志向から「結婚・出産後も一生仕事を続ける」両立志向へと変化。この20年で女性たちの意識がぐっと変わったことがみとれる。

29.0歳  
(2011年)

1.96人  
(2010年)

10.6%  
(2010年)

11.9%  
(2011年)

19.7%

30.6%  
(2010年)

1993年頃

# 先輩ウーマン

好景気を経験し、就職には苦戦しなかった1993年頃の働く女性たち。「総合職・一般職」などコース別人事制度もあったが、世間的には男女格差や寿退社が当たり前。仕事と家庭両立のハードルも高かった。

25.7歳  
(1992年)

2.21人  
(1992年)

4.3%  
(1990年)

6.4%  
(1992年)

32.5%

19.3%  
(1990年)

## この20年の女性達の変化は?

まずは、1993年頃と2013年現在、2つの時代の働く女性たちの様子を、様々なデータをひも解きながら比べてみよう。



# 今、働けている幸せ 激変! 働く女性たちの

# 20年

女性が結婚・出産しても働きやすい環境へと変化しつつある近年。しかし今から20年前、アヴァンティ創刊時はどうだったのだろうか? 当時と今、何が変わり、何が変わっていないのか? 女性たちの働き方・生き方の変化を、改めて振り返ってみよう。

平均  
初婚年齢

(出典:国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」より)

夫婦が産む  
子どもの数

(出典:国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」より)

生涯未婚率  
(女性)

(出典:国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」より)

女性管理職の割合  
(係長クラス以上)

(出典:厚生労働省「雇用均等基本調査」より)

専業主婦志向

両立志向

(出典:国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」より)

- 2013
- ファッション…スーツからジーンズまでオフィスファッションも多様化
  - 髪型…シャギーが流行後、浸透。ポブヘアから巻き髪までスタイルも多様に
  - メイク…ナチュラルメイクが主流。まつ毛を強調するアイメイク重視へ
  - 雑誌…2013年「GOLD」「DRESS」など、バブル世代・アラフォーシングル女性向け雑誌が創刊
  - 流行語…2012年「ファストファッション」、「アラフォー」、「スマホ」、「LCC」など

(参考文献:日本のファッション 明治・大正・昭和・平成(再刊))

- 1993
- ファッション…肩パッド入りのジャケットにミニ丈のタイトスカートが主流
  - 髪型…段差を入れないワンレングスや、細かなウェーブが特徴のソバージュが流行
  - メイク…ラインを強調した細眉、リップラインをきちんとひき、眉と口元を強調
  - 雑誌…1993年「たまごクラブ」「ひよこクラブ」創刊。専業主婦を中心に「たまひよ」ブームに
  - 流行語…1993年「お立ち台」、「インターネット」、「リストラ」、「コギャル」など



# 福岡の街と女性の今

続いては、福岡市の人々の働き方・暮らし方に関するデータから、福岡の街と女性の今の様子を探ってみよう。

(参考データ/財団法人福岡アジア都市研究所「福岡の今」より)

## 出産年齢は30代前半がピーク

福岡市で出産した女性のうち、約4割が30代前半。出産のピークは明らかに20代から30代へと移行しつつある。

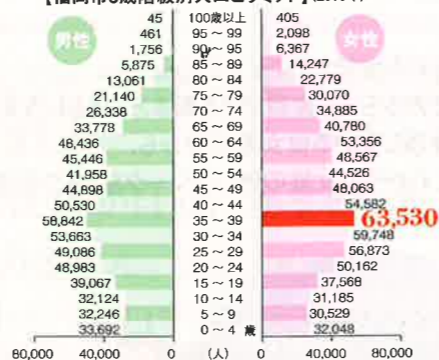
【福岡市の出産年齢区分上位】(2010年)

- 第1位 **30～34歳 (37.9%)**
- 第2位 **25～29歳 (27.6%)**
- 第3位 **35～39歳 (21.1%)**

## 人口が最も多いのは30代後半女性

全国的には高齢者が多く若者が少ない型を描く人口ピラミッドだが、福岡市の人口ピラミッドをみると、若者の数が多く、なかでも最も多いのが35～39歳女性(63,530人)。また、大都市圏のなかで女性比率が高い福岡市。特に20代以上のどの年代をみても、男性よりも女性のほうが多いのだ。福岡市にはいかに女性が多いことが!

【福岡市5歳階級別人口ピラミッド】(2010年)



## 結婚・離婚率、ともに高い

結婚する人の数は政令指定都市中で第4位、離婚する人の数は、第3位と数値はほとんど変わらず第6位にランクイン。結婚も離婚も比較的多いのが福岡女性の特徴だ。

【あたり結婚数】(人口1,000人あたり・2009年)

- 第1位 東京23区 7.7人
- 第2位 川崎市 7.6人
- 第3位 大阪市 7.1人
- 第4位 **福岡市 6.9人**
- 第5位 名古屋市 6.6人

(大都市統計協議会「大都市比較年表」2009年より)  
※小数点第2位以下は非表示

【離婚数】(人口1,000人あたり・2009年)

- 第1位 大阪市 2.8人
- 第2位 札幌市 2.4人
- 第3位 堺市 2.2人
- 第4位 北九州市 2.2人
- 第5位 名古屋市 2.2人
- 第6位 **福岡市 2.2人**

## 出生数は増えている

少子化といえども、実は福岡市での出生数はわずかながら上昇を続けている。また、出生数は政令指定都市中で第3位(2009年)。他都市よりも出産する女性が多いことが分かる。

【出生数の推移】

1990年 13,697人

2010年 **14,656人**

(福岡市住民基本台帳より)

【出生数】(人口1,000人あたり・2009年)

第1位 川崎市 10.1人

第2位 広島市 9.8人

第3位 **福岡市 9.8人**

(大都市統計協議会「大都市比較年表」2009年より)

※小数点第2位以下は非表示

## 起業する女性の割合は全国トップクラス!

大都市圏のなかで、起業する女性の割合が最も多いのが福岡市。自分のやりたいことにチャレンジする女性が多いことが伺える。

【起業者に占める女性割合】(大都市比較・2007年)

第1位 **福岡市 24.3%**

第2位 札幌市 24.2%

第3位 静岡市 23.4%

(統計局「平成19年就業構造基本調査」より)

### COLUMN

## 福岡市発展の裏に、女性パワーあり。女性の消費が、今後の福岡経済を後押し。

1990年代以降、福岡市では新幹線、JR、都市高速など交通網の整備が急速に進み、また百貨店やファッションビルなど商業施設もより華やかさを増しました。そのため、大学進学や就職を機に、福岡に集まる女性たちが増えたのも90年代の大きな特長です。消費意欲の旺盛な女性人口が増えることは、そ

のまま街の発展へとつながります。他の大都市と比べて働き盛りの20代、30代の女性が多く、起業する女性の割合も他の政令指定都市等の中でトップクラス。自ら稼ぎ、事業を起こす女性たちが福岡の消費全体に与える影響は大きく、今や福岡経済の一端を担っているのは女性といえるかもしれません。

この人に聞きました  
九州経済調査協会調査研究部次長  
片山 礼二朗さん

大学卒業後、「九州経済調査協会」に入社。「九州経済白書」の総括責任者を3年に渡って務めた後、最近では「東日本大震災の九州経済への影響」とりまとめ、各所で講演活動を行う。その他、「中村学園大学」「近畿大学」において「流通システム論」の講師を務め、「変化を模索する福岡」の状況を学生に伝えている。

# 女性の働き方に関わる法律は、こう変わった!

女性が働きやすい法律が整備されたのも、この20年の間。特に転換期は2003年。国が仕事と子育ての両立に向けて舵を切ったのは、わずか10年前のことだということが分かる。

- 1992年 「育児休業法」施行**  
女性のみ対象だった育休制度が、男女とも取得できるようになった。
- 1995年 「改正育児休業法」施行**  
育児休業給付金の支給がはじまる。
- 2003年 「少子化社会対策基本法」施行**  
少子化対策の基本理念が明示された。
- 2005年 「次世代育成支援対策推進法」全面施行**  
子育てのための環境整備を整えるべく従業員301人以上の企業と自治体に仕事と子育ての両立のための行動計画の策定を義務づけた。
- 2013年 安倍政権が「女性の活躍は成長戦略の中核」と表明**

それまでは育児休業給付金はなく、休業中に会社が立て替える社会保険料の会社負担分も払う必要があった。育休を取り職場復帰するという選択は、経済的に余裕のある女性にしか許されなかったのだ。

合計特殊出生率が過去最低を更新した1990年から10年以上の時を経て、「仕事と子育ての両立や子育ての負担感を緩和し、安心して子育てができるような環境整備を進めよう」という理念を国が初めて打ち出した。

仕事と子育ての両立を実現するための行動計画の届け出までを企業・自治体に義務づけたのが、この法律。2009年には改正法が施行され、従業員101人以上の企業と自治体も対象に。

「社会のあらゆる分野で2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%以上に」「上場企業には積極的に役員・管理職に女性を登用してほしい」と首相が要請。女性が活躍する社会へとシフトする気運が高まっている。

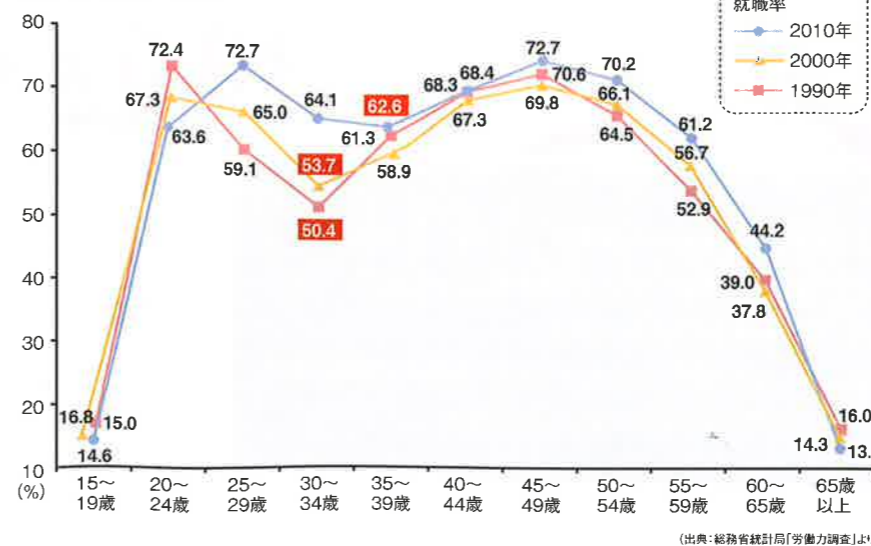
## 20年間で、未だ変わらない問題とは?

続いては、女性の働き方・生き方に関わる全国データの変遷から、20年前からずっと変わらない社会問題に、改めて目を向けてみよう。

### 女性の労働率、未だM字型?

いわゆる「M字型カーブ」を描く、女性の労働率(下図参照)。ただ、1990年には大きく落ち込んでいた30～34歳の就職率が2010年では上がり、20年前に比べると労働率は上がっているといえる。しかし、M字型解消に向かっているかといえば、2010年の下降のピークは実は35～39歳。晩婚化・高齢出産が広がる今、結婚・出産による退職者は多いのが現状といえる。

【女性の労働力率の推移】



## 20年前と今、国はどう変わった?

女性たちの働き方・生き方に影響を与えたものは何か。続いては、国の法律やデータを時系列で追ひ、変わった点・変わらない点を探ってみよう。

### 深刻な少子化

法律や制度の整備は急速に進んだとはいえ、出生率に大きな変化は見られない。20年間、深刻な少子化が続いている現状だ。

【1人の女性が一生の間に生む子どもの数】

1993年 **1.46人** → 2011年 **1.39人**  
(出典:厚生労働省「人口動態調査」より)

### 男性は育休を取れない?

女性に比べると、圧倒的に低いのが男性の育休取得率。2011年でもわずか2%ほど。この現状を打開する方法を今一度考えるべきだ。

【育児休業取得率の男女差】

1993年 **49.1%** → 2011年 **87.8%**  
女性  
1993年 **0.1%** → 2011年 **2.6%**  
男性  
(出典:厚生労働省「雇用均等基本調査」より)



# 先輩ウーマンに聞く！ お悩み相談室

現在50代(1993年当時30代)の先輩ウーマン・トコさんが、今ドキウーマンの悩みに一問一答！人生の先輩に、自分らしく道を切り開くヒントをもらおう。



トコさん

1959年福岡県生まれ。慶應大学法学部卒。専業主婦生活16年後、無謀にもコラムニストに転身して離婚。赤いメガネの本音を語る辛口オバサンとして、九州を中心に活躍。「わたし主義でいく」(講談社)は韓国語にも翻訳され、国際レビューを果たす。最新刊は「ぶっちゃけ風水デイズ」(特選誌)。

この人に聞きました

## Q2

育児と仕事に追われ、息切れしそう…。

「ここまでがんばる意味あるの?」と、専業主婦にも憧れる最近です。(29歳・専門職)

がんばる意味は、ありません! 子育ても仕事も家事も…って全部をがんばろうとしていない? だからきつくなるのよ。100点じゃなくて45点ぐらいでもいいじゃない。それに専業主婦って仕事と違って、評価が形として表れづらくて、それはそれで辛いものよ。今の自分をラクにする手抜きのコツを覚えましょ。がんばりすぎてイライラするよりも、手抜きして気を抜いて笑顔になれるほうがよっぽど、あなたも家族もハッピーなはず!

トコさんから今ドキウーマンへ

### 女性の生き方に選択肢が増えた今、自分が望んだ道を、自分らしく進め!

1993年頃、女性の就職は「腰かけ」と言われていました。就職して3~4年で専業主婦になって…という選択が当たり前。でも今は、仕事も育児も趣味も…とどれも選ぶことができる時代です。仕事だけは決して手放さず、ぜひ自分らしい道を切り拓いて! 選ぶ道が多すぎて迷ったり、悩んだりしたときは先輩や上司に話を聞いてみて。きっといろんな人がいろんなことを言うけれど、その中から自分が「いいな」って思えるところだけを選んで組み合わせ、自分だけの答えを見つけていけばいいのよ。

## Q1

上司から、リーダー昇進を薦められました。責任ある仕事が自分に務まるのか自信がありません。(38歳・営業)

今、あなたのやっている仕事にも何か責任があるはず。つまり責任ある仕事を、もうあなたはすでにやっているのよ! そもそもあなたに能力がなければ、昇進の話もやって来るはずもない。その話がきたってことは、すでに会社が、上司が、あなたのがんばりを評価して、認めているということ! 自信がないと言わず、今のあなたのままでやれば大丈夫。リーダーになったら、出会う人も、見える世界も変わるわよ。ワンランクアップしたときに得られるものを、ぜひ楽しんで!

## Q3

仕事にだけ打ち込んでいたら、結婚も遠のいた。このままずっと一人だったらどうしよう…? (35歳・接客)

ずっと一人だったら、何がいけないの? 仕事に打ち込めるなんて素敵じゃない。結婚だけが幸せな人生、なんてこと絶対はない! 自分の幸せは自分で形づくるもの。仕事に一直線なあなただからこそ、見つけられる幸せもたくさんあるのよ。自分の時間を自分の好きなことに使える自由を、思い切り楽しまなくちゃ! 私の周りにも「おひとりさま」の気楽さ、快適さに憧れている人、たくさんいるんだから。

# 今ドキウーマン・リアルインタビュー

今ドキ女性3人にインタビュー。今だからこそ実現できる働き方・暮らし方を体現している彼女達の姿から、これからの女性の新しいワーク&ライフの形がみえてくる。

夫が育休をとってスムーズ職場復帰

【安川産業株式会社】  
トータルマネージャー  
樋口 亜加音さん(41歳)  
一郎さん(36歳)



夫は同僚的存在! 育休、という同じ士徳を夫婦で経験することで家族の絆が深まる。

現在、2人の子どもを持つ樋口さん。36歳で長男を出産後、職場復帰するタイミングで夫・一郎さんが1カ月の育児休業をとり、育児やならし保育の送り迎え、家事を担当した。「夫は元々出張や残業も多い公務員。職場の理解が得られるか悩んでいましたが、誰かが先陣をきって挑戦しないと! と一念発起。彼が育休をとり、私も息子の送迎や病気を気にせず職場復帰でき、息子も無理せず保育園に慣れることができました。特に息子の成長を初めて目の当たりにした彼の驚きと喜びは大きかったようです。一人で歩けた、初めて野菜を食べたなど、日常に潜む子どもの成長を共有し、家族の絆もぐんと深まったそう。また「虫や泥など自然に触れさせたり、地域行事に参加したり、と私が普段しないことに積極的な姿にびっくり。子どもの世界が一層広がっています」。母親と父親の視点や考え方の違いが、むしろ育児にはプラスに働いているのだ。この秋、亜加音さんが再び職場復帰する折、一郎さんは1カ月以上の育休をとろうと計画中。「今のあなたのイクメンぶりが珍しい世の中になるといいね、と話しています」と、子育てを夫婦で担う二人の自然な姿こそ、これからの家族の形だ。

家庭菜園や地域の祭り、イベントにも積極的に子どもを連れて行く一郎さん。子どもを通じて社会とのつながりもぐんと広がったそう。

複数の名刺を持つノマドワーカー

人事コンサルティングファーム「エスアパートナーズ」代表(社)日本産業カウンセラー協会認定キャリアコンサルタント九州産業大学国際文化学部 非常勤講師  
吉原 さくらさん(35歳)



三種の神器を広げれば、そこがオフィス。ウェブサービスを通じて後述デスクワーカー

複数の名刺を持つ吉原さんは、いわゆる「ノマドワーカー」。彼女の多岐にわたる仕事のうち、人事コンサルティング業務の場合の顧客は企業、キャリアカウンセリングは学生や社会人、講師としての仕事は大学や教育機関が対象となり、クライアントと話ししたり、講義したりする時間がメインとなる。その一方で、そのための資料作りも追われることも少なくはない。

その時に活躍するのが「ノマド」の働き方。吉原さんの場合、移動の合間にファミリーレストランや、カフェでノートパソコンやタブレット型端末などを使って仕事を進めている。「電源やWi-Fiの有無に縛られたくないので、予備のバッテリーとiPhoneは必須です。Gmailがあればメールの送受信もできますし、作ったファイルはクラウドに入れておけばいつでも開くことができます」とIT技術を駆使。

そんな彼女だが、いつも一人だと煮詰まる時もあるという。「意識して集まりに出かけたり、友人とシェアオフィスを始めたりして誰かと関わるきっかけを作っています。信頼できるコミュニティを通して、新たな仕事が生まれることもありますよ」。人との繋がり、ウェブ上にも広がって、最近では仕事の依頼がフェイスブックでもくるようになったという。通信、ウェブサービスの発達とともに新たな働き方が広がっている。

必須アイテムのノマド三種の神器は「iPhone」「MacBook air」「充電式の外付けバッテリー」。これが揃えばどこでも仕事ができる。

# 今の女性達のワーク&ライフに迫る

国や街、法律などに大きな変化が起こった。この20年間。それらの変化を経て、今の女性達はどのように生きているのか? 現在の働く女性の素顔に迫る。

30代で社内3人目となる女性管理職へ

【ANAクラウンプラザホテル福岡】  
マーケティング・PRマネージャー  
森川 忍さん(39歳)



癒しくも、柔らかく自分らしく、しなやかに。部下が何でも相談できる上司でありたい。

この春、マーケティング・PRマネージャーとして、約30名の管理職中3人目の女性管理職となった森川さん。ホテル内の広報・マーケティング業務の責任者として、30代で昇進した彼女だが、気負いは特になかったそう。「管理職、という大きな階段を昇ったというよりは、一つひとつの仕事積み上げてきた延長線上に今がある、という感覚です」とさ。今、部下とともにチームで仕事をする中で「リーダーシップを発揮して自ら仕事を進められる喜びや、チームで動くことで今まで以上に会社に貢献できることも増えました。また、リーダーだからこそ見える景色や考え方、人との縁もぐんと広がりました」と、今まで以上にやりがいを感じているという。

今大切にしていることは? との問いに「自分らしさを発揮したい」との答えが。「例えばお客様の困っている様子、部下の辛そうな表情にいち早く気づいて、声をかけられるような、女性ならではの気配りや柔軟さが私に求められているんだと思います。私自身、管理職になって改めて相談できる上司の存在の大切さに気づかされています。だから私も、部下がオンもオフも含めて何でも話せるような、そんな上司を目指したい」。しなやかに温かく、女性らしい強みを活かした管理職へ。そんな彼女のスタイルこそ、新しいリーダーの姿なのかもしれない。

2012年

2008年

2003年

1998年

1993年

編集後記  
創刊20周年を機に、女性達の変遷を追った今回管理職女性の増加、両立志向の高まりなど、この20年間で女性の意識は明らかに変わってきた。国や街も変化はしているが、晩婚化、未婚化など社会的課題も未だ残っている。今後、女性達の働き方、生き方はどのように変わっていくのか? これからもアヴァンティは、福岡の街、そして等身大の女性達の姿を伝え続けていきたい。



4月号特集記事  
仕事に辞めますか?

2月号特集記事  
35歳を過ぎて、母になるということ  
「仕事を続けてキャリアを積みみたい。人生で叶えたい夢がある。でも、いつかは子どもが欲しい。そんな働く女性が抱えるデリケートな葛藤と心理を取材した高年齢出産特集。「卵子は老化する」と電波で叫ばれる以前より、加齢と不妊の関係について取材した。

3月号特集記事  
ワーキングマザー宣言  
働くママはかっこいい  
職場や家庭、経済的な事情に、他の人達はどう取り組んでいるのか。先輩ママの本音や解決のための支援制度などを紹介して、「仕事も結婚も子どもも全部手に入れたかっこいい」と新しいロールモデルの姿を提示した。

1月号特集記事  
幸せな結婚の鍵は「家事男(かじお)」にあり  
「家事は女の仕事」  
あなたの彼はそう言いますか?  
「女性ってつい男性に尽くしちゃうのよね。でも本当は家事をしてくれる男性と結婚した方が幸せなんじゃない?」という社内会議から生まれた企画。「家事をする男性」を「家事男(かじお)」とネーミング。15年前としてはセンセーショナルな内容だった。

アヴァンティ創刊  
創刊号はイタリア特集。イタリア取材、イタリア料理店シェフの「料理のコツ」など、福岡のイタリアを掲載した。また、大学の最先端の「知」を社会人が学べる場のアヴァンティ。ゼミは創刊からスタートした。

特集記事からみる女性達の变化  
avanti history  
創刊以来、アヴァンティでは特集記事で女性達の働き方の変化を切り取ってきた。今回はその部を時系列で紹介。